

R7 矢上小学力向上プラン構想図

学校目標

地域に根差し、次代を担う、心身ともに健康な子どもを育成する

めざす子ども像

やさしく思いやりのある子ども
がまん強くたくましい子ども
みずから考え取り組む子ども

研究テーマ

主体的・対話的で深い学びに向けた
授業の改善

【学力向上を目指す6つの視点】

学びを支える連携・協働
(家庭・地域)

① 主体的・対話的で
深い学びの実践
(授業改善)

協働的な学び

個別最適な学び

② 学習規律
(揃える)

⑤ わかる授業

学力向上
(学校力向上)

③ 児童指導
家庭学習の充実
(基本的な生活習慣)

④ 学級経営
(支持的風土)

⑥ インクルーシブ教育
(個別の課題への支援)

学力調査における算数科の「思考力・表現力・判断力」の観点で全学年の正答率が市平均を超えることを目指す。

【主な内容】

○児童指導

- ・「矢上っ子まるわかり」
「笑顔が花咲く矢上小」
「こんな子どもになろう」
(持ち物・掲示物を揃える)
- ・家庭学習の手引き
低学年30分
中学年1時間
高学年1時間半
- ・1分前着席
黙想→挨拶
(学習規律を揃える)
- ・家庭・地域との連携

○主体的・対話的で深い学びの実践

- ・「めあて」と「まとめ」が明確な授業づくり
- ・児童と設定する「めあて」や「学習の見通し」
- ・「問題解決」「情報の整理分析」「発信」の場面でのICT活用(わかる授業)

○インクルーシブ教育

- ・算数での少人数、TTの実施
- ・ICT活用の時間の確保
(個に合わせた学習進度の確保)
- ・個別に課題がある児童への支援
- ・スキルタイムの活用(基礎基本の定着)
- ・スマイル教室(専門スタッフとの連携)
- ・学校サポーターとの連携

学びを支える連携・協働

協働的な学び

個別最適な学び

今後の改善に向けた取組

	国語	算数
3年生	・漢字の読み書きをしっかりと定着させるために、日々の家庭学習の中に漢字練習に取り組む時間を設けたり、音読練習で漢字を声に出して読ませる機会を設けたりする。 ・書く力を付けるために、授業中に自分の考えをノートに書く時間を必ず設ける。	・文章題に数多く取り組ませ、どのような式で表すとよいのかを考える力を付けさせる。 ・問題の解き方を説明する際に、相手に分かりやすく解き方を伝えるためにどうしたらよいかを考える時間を必ず設ける。
4年生	・書く力を付けるために、文章の書き方を提示し、型に沿って書く練習をしたり、グループ活動を通して自分の考えを整理した後に、自分の考えを書く時間を作ったりする。 ・漢字の点数が全国平均を下回っているので、毎日の漢字練習を個々に合わせて指導する。 ・漢字テストを定期的に行い、定着を図る。 ・日々、文章を書く機会があったときは、既習漢字は使うように声掛けをする。	・四則計算（特に、繰り下がり引き算・かけ算）が定着していない部分があるため、朝のスキルタイムや授業の冒頭で計算練習する機会を設ける。 ・グラフや表の見方や活用が定着していないので、キュービナやプリントを活用しながら復習をする。いろいろな問題を解かせる。
5年生	・読書の時間を確保し、本を読むことで語彙を増やしたり、文章を読み取ったりできるようにする。 ・单元ごとに振り返りの学習を行い、学んだことを確認して次の学習に生かすことができるようにする。 ・物語文の学習では、主人公の気持ちの変化に着目し、自分の言葉で表現して書く活動を取り入れるようにする。 ・キュービナを活用し、練習問題に取り組むようにする。	・学習内容の定着を図るため、1単位時間の終末に、確認問題に取り組むようにする。 ・毎日の家庭学習で復習問題に取り組むようにし、解答を確認して、必要に応じて個別に指導を行う。 ・一斉指導後、必要に応じて個別に説明したり、指導したりする。 ・キュービナを活用し、毎週末、冬休みなどの長期休みには、家庭学習の課題を出すようにする。
6年生	・自分の意見や筆者の考えを書くといった「書く活動」を、授業の中に意識的に取り入れる。 ・書くことが苦手な子にはヒントカードやワークシートを用意して、考えやアイデアを整理しやすくしていく。	・算数科に苦手意識のある児童に関しては、少人数指導や補充プリントを通して苦手をなくしていく。